南極天文コンソーシアム

筑波大学を中心とする全国大学・研究機関と海外研究所・大学が暗黒銀河の解明等を目指した南極天文学の推進を図る。→　南極天文国際研究セクター

フランス極地研究所
Yves Frenot
ドームC基地運用、電力供給、望遠鏡部材陸上輸送

国立天文台
代表：小林秀行

超伝導電波カメラ素子
ヘテロダイン受信機素子
共同利用観測業務・運用

国立極地研究所
代表：本吉洋一

寒冷地での施設設備
望遠鏡雪上設置法

北海道大学
制御系開発
電波分光計

東北大学
耐寒対策
除振技術開発

福島高専
アンテナ風況解析・雪下調査

新潟工科大
雪ドリフト対策

金沢大学
輸送除振技術開発

関西学院大
ヘテロダイン受信機

JAXA宇宙研
アンテナホログラフィ測定

埼玉大学
MKID素子開発

東京大学
大気透過率測
低分散分光器

チリ大学
チリ国立天文台
Leonardo Bronfman
受信機開発、高地試験

ベルギー科学政策事務局極地事業本部
Maaike Vancauwenberghe
ドームふじ基地輸送ルート開拓、中継基地

イタリア
国立南極プログラム
Vincenzo Cincotti
ドームC基地航空機輸送

筑波大学

代表
中井直正教授，久野成夫教授、新田冬夢助教、大塚洋一教授、梅村雅之教授、森正夫准教授、吉川耕司講師、他

- コンソーシアム代表・研究統括
- 南極天文の提唱・開始（2004～）
- 南極望遠鏡の開発、南極調査
- 超広視野（従来の100倍）アンテナ
- 大規模超伝導テラヘルツカメラ
- 観測の統括